

著者紹介 (執筆順, *は編者。①専門, ②所属, ③経歴, ④主要業績)

*坂本 治也 (さかもと はるや) [第1章]

- ①政治過程論, 市民社会論
- ②関西大学法学部教授
- ③大阪大学大学院法学研究科博士後期課程単位修得退学, 博士(法学)
- ④『ソーシャル・キャピタルと活動する市民——新時代日本の市民政治』有斐閣, 2010年
『市民社会論——理論と実証の最前線』(編著) 法律文化社, 2017年
『現代日本の市民社会——サードセクター調査による実証分析』(共編著) 法律文化社, 2019年

山口 航 (やまぐち わたる) [第2章]

- ①外交史, 安全保障論
- ②帝京大学法学部専任講師
- ③同志社大学大学院法学研究科博士後期課程退学, 博士(政治学)
- ④「総合安全保障の受容——安全保障概念の拡散と『総合安全保障会議』設置構想」『国際政治』(188), 2017年
『日本外交の論点』(共著) 法律文化社, 2018年
『安全保障の位相角』(共著) 法律文化社, 2018年

若月 剛史 (わかつき つよし) [第3章・コラム1]

- ①日本政治史, 日本近現代史
- ②関西大学法学部准教授
- ③東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了, 博士(文学)
- ④『戦前日本の政党内閣と官僚制』東京大学出版会, 2014年
『近現代日本を史料で読む』(共著) 中央公論新社, 2011年
『公正から問う近代日本史』(共著) 吉田書店, 2019年

善教 将大 (ぜんきょう まさひろ) [第4章]

- ①政治意識論, 政治行動論
- ②関西学院大学法学部准教授
- ③立命館大学大学院政策科学研究科博士課程後期課程修了, 博士(政策科学)
- ④『日本における政治への信頼と不信』木鐸社, 2013年
『維新支持の分析——ポピュリズムか, 有権者の合理性か』有斐閣, 2018年
“Do Populists Support Populism? An Examination through an Online Survey following

the 2017 Tokyo Metropolitan Assembly Election,” *Party Politics*, Advance online publication (Co-authored), 2019

飯田 健 (いいだ たけし) [第5章]

- ①政治行動論
- ②同志社大学法学部教授
- ③テキサス大学オースティン校大学院政治学博士課程修了, Ph.D. (Government)
- ④『計量政治分析』共立出版, 2013年
『政治行動論——有権者は政治を変えられるのか』(共著)有斐閣, 2015年
『有権者のリスク態度と投票行動』木鐸社, 2016年

丹羽 功 (にわ いさお) [第6章]

- ①政治過程論
- ②近畿大学法学部教授
- ③京都大学大学院法学研究科博士後期課程単位修得退学, 修士(政治学)
- ④『日本政治変動の30年——政治家・官僚・団体調査に見る構造変容』(共著)東洋経済新報社, 2006年
『二〇一三年参院選アベノミクス選挙——「衆参ねじれ」はいかに解消されたか』(共著)ミネルヴァ書房, 2016年
『市民社会論——理論と実証の最前線』(共著)法律文化社, 2017年

秦 正樹 (はた まさき) [第7章]

- ①政治心理学, 実験政治学
- ②京都府立大学公共政策学部准教授
- ③神戸大学大学院法学研究科博士課程後期課程修了, 博士(政治学)
- ④「新しい有権者」における政治関心の形成メカニズム——政治的社会的再検討を通じて」『選挙研究』32(2), 2017年
Reconstruction of the Public Sphere in the Socially Mediated Age. (Co-authored) Springer, 2017
「若年層における候補者選択の基準——候補者の『見た目』と『政策』に注目したサーベイ実験より」『公共選択』(70), 2018年

濱本 真輔 (はまもと しんすけ) [第8章]

- ①政党論
- ②大阪大学大学院法学研究科准教授
- ③筑波大学大学院人文社会科学研究科博士課程修了, 博士(政治学)
- ④『二つの政権交代——政策は変わったのか』(共著)勁草書房, 2016年
『政治変動期の圧力団体』(共著)有斐閣, 2016年
『現代日本の政党政治——選挙制度改革は何をもたらしたのか』有斐閣, 2018年

*石橋章市朗 (いしばし しょういちろう) [第9章]

- ①公共政策学
- ②関西大学法学部教授
- ③関西大学大学院法学研究科博士課程後期課程所定単位修得後退学, 修士(法学)
- ④『統治能力——ガバナンスの再設計』(共訳) ミネルヴァ書房, 2012年
「国会議員による国会審議映像の利用——その規定要因についての分析」『レヴァイアサン』(56) (共著), 2015年
『公共政策学』(共著) ミネルヴァ書房, 2018年

待鳥 聡史 (まちどり さとし) [第10章]

- ①比較政治論, 政治制度論
- ②京都大学法学部教授
- ③京都大学大学院法学研究科博士後期課程退学, 博士(法学)
- ④『首相政治の制度分析——現代日本政治の権力基盤形成』千倉書房, 2012年
『代議制民主主義——「民意」と「政治家」を問い直す』中央公論新社, 2015年
『政治改革再考——変貌を遂げた国家の軌跡』新潮社, 2020年

小林 悠太 (こばやし ゆうた) [第11章]

- ①行政学, 現代日本政治論
- ②広島大学大学院人間社会科学研究科助教
- ③大阪大学大学院法学研究科博士後期課程修了, 博士(法学)
- ④「内閣府における事務局機能の変遷——官僚集団の特性に着目して」『季刊行政管理研究』(153), 2016年
「政策会議は統合をもたらすか——事務局編制に着目した分析」『季刊行政管理研究』(169) (共著), 2020年

宗前 清貞 (そうまえ きよさだ) [第12章]

- ①公共政策学, 地方自治論
- ②関西学院大学総合政策学部准教授
- ③東北大学大学院法学研究科博士後期課程退学, 博士(法学)
- ④『現代日本政治の争点』(共著) 法律文化社, 2013年
『日本医療の近代史——制度形成の歴史分析』ミネルヴァ書房, 2020年
『政策と地域』(共著) ミネルヴァ書房, 2020年

犬塚 元 (いぬづか はじめ) [コラム2]

- ①政治学史, 政治思想史
- ②法政大学法学部教授
- ③東京大学大学院法学政治学研究科博士課程単位取得退学, 博士(法学)

- ④『デイヴィッド・ヒュームの政治学』東京大学出版会, 2004年
『啓蒙・改革・革命』(編著) 岩波書店, 2014年
『自然宗教をめぐる対話』(翻訳) 岩波書店, 2020年

井上 彰 (いのうえ あきら)

[コラム3]

- ①政治哲学, 倫理学
②東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻准教授
③オーストラリア国立大学大学院社会科学研究校哲学科博士課程修了, Ph.D. (Philosophy)
④『政治理論とは何か』(共編著) 風行社, 2014年
『正義・平等・責任——平等主義的正義論の新たなる展開』岩波書店, 2017年
『ロールズを読む』(編著) ナカニシヤ出版, 2018年

吉沢 晃 (よしざわ ひかる)

[コラム4]

- ①国際政治経済学, EU政治
②関西大学法学部准教授
③ブリュッセル自由大学(ULB)・ジュネーブ大学大学院博士課程修了, 博士(政治学)
④『EU競争政策の正統性と消費者の役割——集団損害賠償請求制度案の失敗を事例として』『日本EU学会年報』(39), 2019年
『変わりゆくEU——永遠平和のプロジェクトの行方』(共著) 明石書店, 2020年
『EU——欧州統合の現在(第4版)』(共著) 創元社, 2020年

西川 賢 (にしかわ まさる)

[コラム5]

- ①政治学, 比較政治学
②津田塾大学教授
③慶應義塾大学大学院法学研究科後期博士課程修了, 博士(法学)
④『ニューディール期民主党の変容——政党組織・集票構造・利益誘導』慶應義塾大学出版会, 2008年
『分極化するアメリカとその起源——共和党中道路線の盛衰』千倉書房, 2015年
『ビル・クリントン——停滞するアメリカをいかに建て直したか』中央公論新社, 2016年

曾我 謙悟 (そが けんご)

[コラム6]

- ①行政学
②京都大学大学院法学研究科教授
③東京大学法学部卒業
④『行政学』有斐閣, 2013年
『現代日本の官僚制』東京大学出版会, 2016年
『日本の地方政府』中央公論新社, 2019年